

矢作川流域圏懇談会通信

R1 市民部会編 vol.2



発行日：令和元年 11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第5回市民部会を開催しました！

今回の市民部会 WG では、今年度行われた流域連携イベントについて参加状況を報告し、それに対する意見交換を行いました。また、11月22日に開催される勉強会の内容を検討するとともに、来年度に開催予定の地域部会合同のバスツアーに向けた話し合いを行いました。



日時：令和元年 10月29日（火）14:00～16:30

会議場所：豊田市崇化館交流館 4階 第2会議室

参加者：12名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 今年度開催された流域連携イベントについて



今年度は3つの流域連携イベントが開催され、矢作川流域圏懇談会として参加しました。

- ①事例集交流会2019（6月22日 岡崎市高木製作所研修所）
- ②2019矢作川感謝祭（9月8日 豊田市千石公園（豊田大橋下））
- ③第6回三河湾大感謝祭（10月20日 碧南市大浜漁港）

参加された部会メンバーの意見を参考に、良かった点や改善点などを話し合いました。

②と③のイベントでは、今年度からクイズ大会を実施したことで懇談会のブースに多くの集客があり、矢作川の情報発信に効果を発揮しました。一方で、文章の多い懇談会通信の掲示を見るお客さんが少なかったなどの課題もありました。

また、今年度試験的に開催された矢作川いかだ下り大会の主催団体からは、矢作川流域圏懇談会の参加を求める声が出ています。そのため、来年度の早い段階で流域連携イベントへの参加方針を話し合うことで意見がまとまりました。



2. 勉強会（小渋ダム見学）の内容について



前回の第4回市民部会 WG では、今年度の流域連携の取り組みについて話し合いを行いました。その中で、流域連携テーマの一つである「土砂」問題の解決策として、国土交通省が取り組んだ小渋ダムにおける土砂バイパスの見学が話題としてあがりました。

小渋ダムでは、ダムに堆積した土砂による貯水機能の低下が課題となっています。その課題解決策として、土砂バイパスを作り、流れてくる土砂を出水とともに下流へ流す取り組みを行っています。一方、矢作川では、下流への土砂の供給が少なくなり、河床のアーマー化や干潟の減少など、様々な問題を抱えています。

懇談会では、かつて第27回川部会 WG で運用開始前の土砂バイパスを見学しているため、今回計画した勉強会では、運用している様子を見学し、新たな技術的知見の共有を目的としました。様々な部会から参加していただけるよう、意見交換を行いました。



3. 各地域部会が他部会に紹介したい内容について



市民部会では、各地域部会が抱える課題を流域圏懇談会全体の共通認識とすべく、矢作川を巡るバスツアーを来年度以降に開催することを目標としています。今年度は、山・川・海の地域部会から、他部会に紹介したい内容と場所を各部会で議論した上で選定していただくよう、提案することとなりました。

市民部会として、各地域部会に紹介してほしい場所は以下の通りです。

●山部会

放置された人工林

●川部会

矢作ダム（土砂の問題）

●海部会

終末処理場、トンボロ干潟、漁場

山が抱える問題を山だけの問題（川、海も同様）として捉えるのではなく、流域全体の問題として矢作川流域圏懇談会全体で共通の認識を持ちたいと考えています。



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●今年度開催された流域連携イベントについて

- ・矢作川感謝祭は元々、漁協さんを中心とした会だったが、若い人や新たな団体が加わり、雰囲気が変わった。(近藤)
 - ▶ 流域圏懇談会の海部会で出展した海の生き物の展示は子ども達が集まり、盛況だった。(高橋)
- ・三河湾大感謝祭で赤色立体地図を置いたら、人が集まり、昔の海の範囲などの話ができておもしろかった。(高橋)
 - ▶ 文章の多い懇談会通信などの掲示を見る人はほとんどいなかった。(山本孝)
- ・三河湾大感謝祭が開催された碧南市は醸造所が多く、歩きながら原酒を飲んだり楽しめる場所であった。(高橋)
 - ▶ その周辺は寺が集中して並んでいる。昔は寺の場所のみ陸地で両側が海というおもしろい地形であった。(近藤)
- ・来年以降、良かったことは拡大し、改善点は見直すなど、早い段階から意見をもらいながら進めていきたい。(光岡)
- ・今年は矢作川のいかだ下り大会が試行された。主催団体は矢作川流域圏懇談会の参加を望んでいる。(近藤)
 - ▶ いかだ下りはどこで実施され、距離数はどのくらいだったのか。(光岡)
 - ▶ 越戸から豊田大橋までの4km程度だと思う。今年は水量がなく、いかだを引っ張っていた。昔やっていた川下り大会のときは、越戸ダムから水を出してもらっていた。また、事故には細心の注意が必要である。(近藤)

●勉強会(小渋ダム見学)の内容について

- ・平日一日拘束する内容なため、参加者は25人程度だと予想される。土日だともっと集まるのではないか。(近藤)
- ・小渋ダムに行く目的や経緯などをわかりやすく部会メンバーに発信すると参加者が増えるはずだ。(山本薫)
- ・土砂バイパスで堆砂を流しても下流のダムに堆積するため、ダンプで直接海まで運ぶというやり方も良い。(高橋)
 - ▶ 誤解してはいけないのは、土砂バイパスはこれからダムに入ってくる土砂を洪水時に流すものであり、すでに堆積している土砂を流すものではない。現状溜まっている土砂は砂利屋さんが粛々と採っている。(神本)
 - ▶ 様々なダムがそれぞれ課題を持っている。今回は小渋ダムの独特な課題の解決方法を見て学べると良い。(光岡)

●各地域部会が他部会に紹介したい内容について

- ・3つの部会から意見を出してもらおうが、それを利用して、最終的に目指すゴールは何にするのか。(光岡)
 - ▶ バスツアーのルートを決めることが一つのゴール。ルートを作ってからその先が見えてくるはずだ。(山本孝)
- ・ただ単に各部会で話し合っている内容やテーマを共有するだけではなく、地域部会間で共通認識としたい。そのため、各部会の参加者個人の意見を集めるのではなく、各部会で議論したうえで地点を選定してほしい。(近藤)
 - ▶ このバスツアーは各部会で「どんな視点で、この地点を見て議論した」「こんな原因があって、こんな課題を抱えている」というのを他の地域部会に紹介する位置づけである。(光岡)
 - ▶ 各地域部会がお互いの内情を知っていないと、矢作川にとって何が一番いいことなのかかわからない。(高橋)
- ・各地域部会にあげてもらった地点を全て回れるわけではないので、優先順位をつけて選定してほしい。(光岡)
- ・地域部会で話し合うときに、過去のバスツアーの開催年と見学場所を示してもらいたい。(内田)
- ・市民部会の役割は、流域市民として「これを見たい」というのを提案することだ。(近藤)
 - ▶ 山では、放置された人工林の問題が重要だ。落葉広葉樹は冬に水を使わないが、人工林は冬も水を吸い続けているため、放置された人工林により川の水量が減っている。(山本薫)
 - ▶ 海では、トンボロ干潟や終末処理場、漁場を見てもらうべきである。(高橋)
 - ▶ 海で魚や鳥がいなくなっていることを認識して、海だけではなく上流域の都市の問題だということがわかるように情報を紹介すべきである。(近藤)
 - ▶ 川では町に水がひかれ、水量が減少していることは大きな問題だ。(高橋)
 - ▶ 川で矢作ダムは外せない問題である。また、川には土砂以外にも洪水による影響も必要だ。(近藤)
- ・人工林がなぜ悪いのか、天然林と比べてここが違うという点を説明してほしい。(山本孝)
 - ▶ きちんと管理できていれば人工林も問題はない。時代の要請がなくなって放置された人工林が森林の半分近くある。このような人工林はお金を生まなくなっているため解決が難しい。(山本薫)
 - ▶ 一番は正しなればならないことは、森の問題を山の人たちの問題とと思っていることだ。流域全体の問題にしないでほしい。意識をそこまで高めることがツアーの課題である。(近藤)
- ・各地域部会の課題を紹介するだけではなく、併せて良い事例も紹介していただくと理解しやすい。(野村)

●振り返り

よかったと思うこと：久しぶりに市民部会に出て雰囲気が良かったこと。/今日のような話が今後もできると良い。

今後の予定

■市民部会「まとめの会」

日時：令和元年12月18日(水) 14:00~16:30 豊田市崇化館交流館3階 第1研修室



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

